

安城市の遺跡

埋蔵文化財センター

平成17年度の発掘調査から

安城市では、250か所を超える遺跡が確認されています。埋蔵文化財センターでは、平成17年度も多くの遺跡を調査しました。ここではその中で特に大きな成果を上げたものを紹介します。

上条遺跡群（上条町・山崎町）



台地裾から出土した多量の土器片

上条遺跡群は上条町・山崎町にかけて広がるいくつかの遺跡をまとめた呼び方で、弥生時代と古墳時代を中心とした大きな集落（ムラ）のあとと考えられています。県営は場整備事業に伴い、平成16年度から調査を行っていました。平成17年度は、過去の工事で遺跡が消滅した根崎地区の様子を探ることに重点を置いて、まだ遺跡が残っている根崎台地東側部分の調査を行いました。この根崎台地東側部分は大半が湿地になっており、岸辺からは大量の土器が出土しましたが、そのほとんどが弥生時代後半と奈良時代から平安時代の

ほかには縄文時代と古墳時代の土器が少量ありました。また一部には台地が削られ残った部分があり、そこでは鎌倉時代以降の井戸や泉の跡と思われる遺構が見つかりました。これらの土器や井戸などの遺構は根崎台地の上にあった遺跡で暮らしていた人々が使っていたもので、弥生時代後半と奈良時代から鎌倉時代初めごろにかけては台地の上に大きなムラがあったことを示しています。特に、奈良時代から鎌倉時代初めごろの遺物や遺構の発見は、これまで上条遺跡群の空白の時期とされていたころのもので、弥生時代後半以降、わずかな期間の断絶はあったものの、ムラが続いていたことが分かりました。また、少量ですが縄文時代の遺物が見つかったことで、上条遺跡群の開始



平安時代の壺



井戸の底の部分と出土した土器
（中央の帯は土層観察用に掘り残した部分）

時期が縄文時代にも遡る可能性も出てきました。このように、2年間の調査で謎の多かった上条遺跡群の実体が迫ることができました。



崩れた土塁の北側で見つかった堀

本證寺境内地（野寺町）

鎌倉時代後期に開かれたとされる本證寺は、古くから西三河地方の真宗門徒の中心的役割を果たした寺院の一つで、室町時代に本願寺の勢力下に入ってから、三河三か寺の一つに数えられました。1562年（永祿5年）に起こった三河一向一揆では家康と敵対しました。この本證寺には境内地を囲むように二重に堀や土塁が巡らされ、あたかも城のそれをおもわせることから城郭伽藍の代表的遺跡として県の史跡に指定されています。今回調査をしたのは、境内地の北側にある土塁裾部で、近年の風災害などによりこの土塁の一部が自然崩落したので、現状復旧と将来の保存活用策に向けた基礎資料を得るため、幅1m、長さ7mの範囲で試掘坑を設けて行いました。その結果、明治時代以降に削られたと考えられる土塁北側の下層が、何層もの土や粘土を突き固めて重ねていく版築という工法で盛り上げられていることと、崩れた土塁の北側に深さ約1.9mの堀が埋まっていることが分かりました。出土した陶器片が江戸時代後期のものであることから、現在見るこ

きる堀や土塁の一部は江戸時代後期に再整備されたことが初めて確認されました。そして、更に掘り下げたところ、現在の地表面から約2.4mの深さでこれより古い堀の底が見つかりました。当初の土塁の高さは確実なことは分かりませんが、土塁の北斜面のたい積状況から、内堀の底から土塁の頂部まで約4mの高さがあったと考えられます。今回の調査では、この当初の堀や土塁が築造された時期については確認できませんでしたが、少なくとも現状の内堀が境内を取り囲むように全体に深く掘られていた可能性が高いことが分かりました。



堀に埋まった土層の測量作業

土層の模式図



今回の調査では、調査区内全域にいくつもの自然水路が何度も流れていたことが分かりました。これらの水路は概ね飛鳥・奈良時代にかけて流れていたものと思われます。北西隅の一角では、水路の南側に沿って何本もの杭が打ち込まれているのが見つかりました。これらの杭列は2〜3回にわたって作り直されており、護岸の目的などに使用したと考えられます。これらの川の中からは弥生・戦国時代にかけての土器などがたくさん出土しましたが、特に多かったのは飛鳥・奈良時代の土器です。また、それ以外の遺物として、古墳時代の耳環（耳飾り）や巡方（奈良時代の役人が使用したベルトに付ける金属製の装飾品）と思われるものも出土しています。屋下遺跡で出土する遺物は、完全な形で出てくるものは極めて少なく、多くが破片で出土することから、周辺で生活していた人々が使っていた土器が、川の



水路に沿って打ち込まれた杭列



ベルトの装飾品

遺跡の調査にご協力を！

遺跡はわたしたちの過去の歩みを記録しているかけがえのないものであり、一度破壊されると二度と明らかにすることはできなくなります。埋蔵文化財センターでは、開発に伴い、やむを得ず破壊されてしまう遺跡について、事前に発掘調査を行っています。個人住宅の建て替えの際の調査については調査費用は無料ですので、気軽に相談ください。今後とも皆様のご理解とご協力をお願いします。



なお、発掘調査によって出土した遺物は、埋蔵文化財センターで保管・展示しています。今回紹介した遺跡の出土品も展示してありますのでぜひご覧ください（月曜日と祝日の翌日を除く毎日午前9時から午後5時まで展示）。また、市のホームページにも掲載しています。

問い合わせ▼

安城市埋蔵文化財センター（安祥文化のさと内）
☎（7）4490